

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市西京区山田平尾町17番地								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	社会福祉法人京都社会事業財団 会長 松原 義人								
事業者の主たる業種	社会福祉事業・医療業（病院）								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	20年 4月 ～ 23年 3月								
基本方針	各施設において、エネルギー消費効率の改善および職員の意識向上に努め、CO2の削減を目指す。								
推進体制	各施設長および担当課を中心に管理体制を整備し、CO2削減計画の策定と具体的な成果に向け取り組む。								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	取得年月日								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	平成20年度 平成22年度	つばさ園	冷暖房の節約。家電製品の買い替えによる節電。会議等資料紙の節約。						
		京都厚生園	業務用車輦の使用を削減し、できる限り公共交通機関や自転車を使用につとめる。梱包材や田・ビン・ペットボトル等の納入業者の持ち帰りを実施する。古紙のリサイクルに取り組み、目印型蛍光灯や節電型トイレス等、機器を節電型へ更新。						
		京都桂川園	節電システム導入、空調の適温化、照明の適正化（部分消灯等）、エレベーターの適正使用（階段の使用等）を実施し、排ガス規制及び省エネ基準に適合した車両への買い替えに努めることで、2%削減する。						
		にしがも舟山庵	空調・照明の運転時間管理及び整備を定期的実施している。使用量削減（無駄を無くす）。						
		北野保育園	設備等の使用適正化を積極的に推進して、エネルギー使用量の削減に努める。						
		二条保育園	電球の30%をLEDに変更。						
		昭和保育園	電力消費量の管理を徹底する。						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） 22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	10,448.0 t	9,895.0 t	-5.3 %	10,479.5 t	0.3 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	29.0 t	29.0 t	0.0 %	0.1 t	-99.7 %			
	排出合計	*1 10,477.0 t	*2 9,924.0 t	-5.3 %	*4 10,479.6 t	0.0 %			
実績に対する自己評価	（つばさ園）夏の猛暑でエアコンを常時使用していたため節電に到らなかった。 （京都厚生園）平成21年度の新規事業開設に伴い、3%の排出量増加を見込んでいたが、記録的な猛暑が続いたことや施設改修などの影響で電力量が増大し削減にはならずも2.7%に留めることができた。 （北野保育園）設備等の使用適正化を積極的に推進して、温室効果ガス排出量の削減に努めたが、22年度の猛暑・厳冬により、利用者保護の観点（熱中症・新型インフルエンザ予防）から、エネルギー使用量の増加につながった。 （京都桂川園）計画通り達成できなかったが、コージェネ総合効率の見直しをしたことで削減できた。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	実績に対する自己評価	つばさ園	二酸化炭素換算 延床面積	0.075 t-CO2/m ²	0.069 t-CO2/m ²	-8.0 %	0.059 t-CO2/m ²	-22.0 %	
		松陽児童館	二酸化炭素換算 延床面積	0.030 t-CO2/m ²	0.027 t-CO2/m ²	-10.2 %	0.030 t-CO2/m ²	-1.3 %	
		京都厚生園	二酸化炭素換算 延床面積	0.132 t-CO2/m ²	0.125 t-CO2/m ²	-4.8 %	0.130 t-CO2/m ²	-0.9 %	
		成造センター	二酸化炭素換算 延床面積	0.143 t-CO2/m ²	0.136 t-CO2/m ²	-5.0 %	0.142 t-CO2/m ²	-1.2 %	
		松尾の家	二酸化炭素換算 延床面積	- t-CO2/m ²	0.134 t-CO2/m ²	#VALUE! %	0.065 t-CO2/m ²	#VALUE! %	
		京都桂川園	二酸化炭素換算 延床面積	0.143 t-CO2/m ²	0.140 t-CO2/m ²	-2.1 %	0.143 t-CO2/m ²	-0.3 %	
		にしがも舟山庵	二酸化炭素換算 延床面積	- t-CO2/m ²	0.060 t-CO2/m ²	#VALUE! %	0.060 t-CO2/m ²	#VALUE! %	
		北野保育園	二酸化炭素換算 延床面積	0.022 t-CO2/m ²	0.021 t-CO2/m ²	-3.7 %	0.026 t-CO2/m ²	21.3 %	
		二条保育園	二酸化炭素換算 延床面積	0.036 t-CO2/m ²	0.034 t-CO2/m ²	-6.9 %	0.035 t-CO2/m ²	-2.5 %	
		昭和保育園	二酸化炭素換算 延床面積	0.037 t-CO2/m ²	0.036 t-CO2/m ²	-0.5 %	0.040 t-CO2/m ²	9.6 %	
		京都桂川園	二酸化炭素換算 延床面積	0.168 t-CO2/m ²	0.157 t-CO2/m ²	-6.8 %	0.157 t-CO2/m ²	-6.3 %	
		西陣病院	二酸化炭素換算 延床面積	0.164 t-CO2/m ²	0.158 t-CO2/m ²	-4.0 %	0.162 t-CO2/m ²	-1.3 %	
		実績に対する自己評価	（つばさ園）夏の猛暑でエアコンを常時使用していたため節電に至らなかった。 （京都厚生園）平成21年度の新規事業開設に伴い、3%の排出量増加を見込んでいたが、記録的な猛暑が続いたことや施設改修などの影響で電力量が増大し削減にはならずも2.7%に留めることができた。 （北野保育園）設備等の使用適正化を積極的に推進して、温室効果ガス排出量の削減に努めたが、22年度の猛暑・厳冬により、利用者保護の観点（熱中症・新型インフルエンザ予防）からエネルギー使用量の増加につながった。 （京都桂川園）計画通り達成できなかったが、コージェネ総合効率の見直しをしたことで削減できた。						
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	削減量等の区分	目標年度（計画）		報告年度（実績）					
		取組量等		取組量等					
		（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
		（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t
		（充電量）	kwh	（削減量）	t	（充電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
		（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
		（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
		削減量等合計		*3		*5			
		差引排出量	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
（排出合計-削減等合計）	*1 10,477.0 t	*2 9,924.0 t	-5.3 %	*4 10,479.6 t	0.0 %				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	（松陽児童館）毎月16日を「エコの日」として、エコ活動に取り組む。又、ペットボトルのキャップを集め、リサイクルのエコキャップ推進活動に取り組んでいる。								
特記事項	（松陽児童館）毎月16日を「エコの日」として、エコ活動に取り組む。又、ペットボトルのキャップを集め、リサイクルのエコキャップ推進活動に取り組んでいる。 （京都厚生園）平成22年度施設改修に伴い、節電・節水タイプの機器への更新 ・ 食堂・利用者居室・廊下（一部除く）等の照明を高効率照明タイプ（HE）を更新した。 ・ 館内31か所のトイレの内、29か所（約93%）を節水タイプへ交換した。 ・ トイレ等の照明を人感センサー式自動消灯の灯具へ変更した。 （にしがも舟山庵）空調運転時間・照明点灯時間管理し温室効果ガス1%削減 （西陣病院）21年度は前年同様にコージェネレーションの廃熱利用を見直し、廃熱をあまり必要としない中間期などは運転時間を減らすことでガス使用量及び電気使用量の削減								

注 1 該当するには、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 注 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 注 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 注 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分子と母なる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 注 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 注 6 「特記事項」には、平成22年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条約指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。